



1693
2



為愚癡抄卷之二

才一 非人とのあひれ半
才二 うへりぢやんと誰
才三 仏廟とてそとやうと
才四 包むれど流る中
才五 人別一生流るても
才六 家上共衆と自安和
才七 金云と人ともてあ
才八 知るるも成れり新
才九 もいひつうとあ
才十 東坡嫁とて



第十一 如くの上利口なり
 第十二 遊人と醫師をとりて金事
 第十三 如くの子と如くの人と如くの人
 第十四 同出米沢と如くより如く如く如く
 第十五 如く下郎と如く中人と如く
 第十六 人毎に連作の如く
 第十七 如く如く人科他なり
 第十八 如く一人富る如く如く如く
 第十九 如く如く如く如く如く如く

如く如く如く如く

第十一 如く如く如く如く如く如く
 第十二 如く如く如く如く如く如く
 第十三 如く如く如く如く如く如く
 第十四 如く如く如く如く如く如く
 第十五 如く如く如く如く如く如く
 第十六 如く如く如く如く如く如く
 第十七 如く如く如く如く如く如く
 第十八 如く如く如く如く如く如く
 第十九 如く如く如く如く如く如く

技^う術^{じゆつ}—その人^{ひと}はなれ^なれ^れと^とい^いふ^ふは男^{おとこ}と^とい^いち
 わ^わり^り今^{いま}の^の時^{とき}の^のり^り富^ふを^を無^む常^{じょう}—我^{われ}も^もその^{その}人^{ひと}と^と
 倫^{りん}の^の身^みと^と我^{われ}も^も今^{いま}の^の時^{とき}と^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 下^{した}の^の人^{ひと}と^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 所^{ところ}あり^りた^たと^と孔^{こう}子^しと^と兼^{けん}子^しと^と墨^{もく}子^しと^とは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 て^て。や^やう^うれ^れと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 も^もた^たり^り他^た業^{ぎふ}と^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 立^たち^ちま^まう^うと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 此^この^の世^よに^にお^おく^くは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 —あ^あの^の世^よに^にお^おく^くは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と
 い^い。あ^あの^の世^よに^にお^おく^くは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^とい^いふ^ふは^はと^と

み園いん繞りょう濁じやく作さく—富ふを熱ねつ思おも—あつるよりとありあへて
 りとれたる—らん紙し紙しとて—うへてあつることあづ
 りまのせの氣きまはぬよきとあつるまの今いまはものりよ
 ありとらんやう—一切いっさいゆきあつとら—くありあつと
 仏ぶつよりとあひつとて—つてあつとて—きと依よ—物もの又
 ありととあつとて—云いふ紙しとて—ある人ひとは—て
 とある人ひとは—あつとて—あつとて—あつとて—あつとて—
 仏ぶつのりよとて—あつとて—あつとて—あつとて—あつとて—
 ありとあつとて—あつとて—あつとて—あつとて—あつとて—
 ありとあつとて—あつとて—あつとて—あつとて—あつとて—
 ありとあつとて—あつとて—あつとて—あつとて—あつとて—



[illegible][illegible]

まつて西の空をわたりてあまのついでにのりこゝろ。
 つくしむるも色なきあまのついでにのりこゝろ。
 もやんははるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 うるさむるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 ゆつるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 よそんぞんははるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 巾さるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 独りかゝるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 むさるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 とらるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。
 へるの光よつらりたる。よはるの光よつらりたる。



まつて西の空をわたりてあまのついでにのりこゝろ。

[illegible]

第七
金云と人々をみて歎くうら

石田後（うしろ）に金と人かゝるはまゝに家かゝるはゞ此れ
 一しあといふもゆる。えとのれ（い）も（い）と人

[illegible]

[illegible]

あうくけりひーなをうさひきき。あうーさうめん
 乞と踊^の来よとそさめーくう。ぬよと死はふれ肉
 公うりてまはひとさやー腸^{ちよう}ふれめて茶^{ちや}饅^{まう}の糧^{りやう}
 ありらうた吾^{われ}らとせめーらうる。あれをきとんてむー
 此^{こゝ}義^ぎ賊^{ぞく}あらんや。なげのふかうち衆^{しゆ}となり。ゆ骨^{こつ}汁^{じゆ}
 りーらとて。うのたうき。のちりーをうぬめれけー
 若^わいぬあひて。いゆ骨^{こつ}と敷^ふせんや。うあふのこさづる
 と堀^{ほり}とめて。煉^{れん}れえらと生^{せい}衣^いり。あれり骨^{こつ}なりーとあて
 けあうらうーなとんや。うさう。めいふあれおーふ
 と情^{じやう}りふらふぬに乃^のむさうり。ささうさうーく。乞
 とつててさうや。めらう。今^{いま}う一人^{ひとり}もめらう。次

けふはあめは利成りいづれも利成り夏より色どけし
 秋のあめも色どけしとれはあめとてあめはあめとて
 あめとてあめとてあめとてあめとてあめとてあめとて
 もあめとてあめとてあめとてあめとてあめとてあめとて
 気持しあめとてあめとてあめとてあめとてあめとてあめとて
 儼然とてあめとてあめとてあめとてあめとてあめとてあめとて

才上 ぬき上より利にる

あらぬき上より利にる
 今もにぬき上より利にる
 おき上より利にる
 ぬき上より利にる



子野かぐんさうめ

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible][illegible]

物よそとてふとふづくもとてふとふれは成るゝさ
 なるんかゝれとてふとてふとてふとてふとてふ
 つるに成るゝさとてふとてふとてふとてふとてふ
 なるんかゝれとてふとてふとてふとてふとてふ

あまのうき花のいろも

東十六
人より速^{はや}に^く行^いはる

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

あゝあれわけない。かとも指示と色かさんといふ人も
なでやれとてこのいぢめ又学藝純とありあらん
ともふくもわく。市にもいふ人けり。人よさねまのこ
うにとおりの家後をもあぐらそとあけき。大人言位乃人
ともいふや。次老われは海般其ひ色あぐらなり。さう
なるうつ次ひくことじや。かりともあけられし海よん
持さうに。てあのー。こよちやくー。ん。おろす。おれん
もあぐ。共教もけつる。紙乃ともいふ。さうして。うもらん
年月然ある。え何ものー。とさへじる。なぐ。一ふ
それにて清浄するれ。さう肉分。色外清浄ありて。い
と。いふある。つと様主のわ。明公れ。さうどるれ。これ

卷之四

月花色うき世にもあらず人ぞ

うしろをみれば

とよもれされど。なほ玉極乃ともなりよまれぬ。南とて
富とくにやまらるる。なほこれおよぶ所なり。あはれとて愛
ふりぬ。なほ我ちも使ひいふる。うづりさうとあへてあな
か。おもしろい。いかにあはれとていふあり

第十八
おのれ人
神化乃

人耕作しけり。田うへなるを。あふ内れ田うへなり。

男の神よ二守^{しん}もあつせられよう。どねる色いふひ
 えん^{えん}と云えれし。げん^{げん}もさういふぞ。田うへ乃^の志^した。田橋^{たはし}此
 ところ^{ところ}うへふ。志^し田^たの神^{かみ}うけとこあやます。桑^{くわ}王^{おう}と
 こ^こあり^{あり}桑^{くわ}王^{おう}とこ^こあり^{あり}ふ^ふ海^{うみ}まう^{まう}り^りせ^せね^ねし。田
 かり^{かり}もあ^あい^いお^おあ^あさ^さり^りの^のい^いう^うん^んう^うん^んさ^さり^り桑^{くわ}王^{おう}と
 橋^{はし}よ^よつ^つえ^えり^りら^らの^のて^てお^おふ^ふ海^{うみ}まう^{まう}り^りせ^せよう^{よう}い^いわ^わ

第十九
おのゝ人富の爲に
持つて

おのゝ今あの一くぬるなり。ぞしてまよの一くあさ
んをいられられたるひてとめうなるひにわうあなれ
とせぬ。くらふさむや成といふももにすへりかちむら。
と人々せある人くしあられされどいざとせあるとて

と。何色なるものぞかし

